

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次
52207	Mental health of the child 子どもの精神保健	森内 さやか	専門	2	選択	2 年後期
科目の概要						
乳幼児期から青年期までを中心に、各発達段階におけるメンタルヘルスのあり方について学ぶ。ストレスやそれに伴う身体症状または精神症状を理解し、メンタルヘルスの保持とその予防や対応などについて保育の専門家としての知識を深める。また、学生自身の自己理解と自身のメンタルヘルスについても学ぶ。さらには、職場の人間関係、家庭生活、保育園・幼稚園、学校などにおける、私たちの周囲の身近な環境でのメンタルヘルスについても考えていく。						
学修内容			到達目標			
① 乳幼児期の母子のメンタルヘルスを中心に、各発達段階の課題や問題行動を理解し、予防や対応について学ぶ。			① 乳幼児期の母子のメンタルヘルスや問題がある場合の支援方法など現場で役立つ知識を得ることができる。			
② 保育現場でのストレスの内容を理解し、対応について考える。			② 職場の人間関係や職場の環境など就職後のメンタルヘルスについて考え、心構えをもつことができる。			
③ 自分自身の性格特徴や対人関係の持ち方を把握し、自身のメンタルヘルスについて考える。			③ 自分の性格や対人関係の持ち方等を知り、自己のストレスに目を向け、その予防と対応を身につけることができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	・自分なりの課題意識を持って講義内容を聞き、要点を筆記する。 ・グループ討議では、積極的に意見を述べ、協力して発表内容をまとめる。				
	働きかける力					
	実行力	・グループワークで意見を出し合い、整理して、聞く人に伝わるように発表できる。				
考え抜く力	課題発見力	・実習経験や今までの学修を基に課題を探し出すことができる。				
	計画性					
	創造力	・グループ討論や発表で、他の学生の意見を聞き、自分自身の経験と合わせて、意見をまとめることができる。				
チームで働く力	発信力	・講義内容で疑問に思ったこと、分からないことを積極的に質問できる。				
	傾聴力	・講義内容、他の学生の意見に耳を傾け、自分自身のこととして考えることができる。				
	柔軟性	・体験学習では、自他の特性を理解する。				
	状況把握力					
	規律性	・無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、基本的なルールを守ることができる。				
	ストレスコントロール力	・自己のストレスに意識を向け、その予防や対応を考えることができる。				
テキスト及び参考文献						
保育者が学ぶ精神保健 平松芳樹 池田勝昭 (株) みらい						
他科目との関連、資格との関連						
他科目との関連：「保育相談の基礎」、「幼児理解」 資格との関連：「保育士」						
学修上の助言			受講生とのルール			
・ 日ごろから自分自身の対人関係の持ち方を考える。 ・ 授業内容を実習体験や、日常生活での出来事と重ね合わせて理解する。			・ 保育士は人を対象にした仕事であるため、知識と豊かな情緒を育むことができるように、学ぶ意欲をもって臨むこと。 ・ 携帯電話は、授業中は使用しないこと。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	70	①	✓	授業で学習した内容の理解度を確認し、自身の考えを述べているかを評価する。 ・各発達段階の精神保健上の問題とその予防と対応について理解し、述べることができるか。 ・保育現場のストレスについて理解し、就職に向けて大切な心構えを述べることができるか。 ・自分自身のメンタルヘルスについて興味を持ち、健康を保つ心がけについて、自身の考えを述べていることができるか。
		②	✓	
		③	✓	
小テスト				
レポート				
成果発表 (口頭・実技)	20	①	✓	第11週、12週において、各テーマについてグループ討議を行い、作成した資料をもとに成果発表を行う。 グループ討議の資料(10点)、プレゼンテーション(10点) ・問題行動の理解、支援方法、予防について、的確にまとめることができ、説明できているかを評価する。
		②		
		③		
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・興味関心、学修意欲の高さ、積極的な発言を評価する。 (実行力) ・グループ討議で積極的に発言し、意見をまとめるように働きかけることを評価する(課題発見力) ・実習体験やこれまでの学修から各発達段階における精神保健上の問題を考えようとするができる。 (創造力) ・グループ発表で他の学生の意見を聞き、自身の体験と合わせて、保育現場での子どもに対するよりよい支援を考えることができる。 (発信力) ・講義内容に対して、疑問に思ったことを質問できる。グループ発表時に、聞き手にわかりやすいように発表することができる。 (傾聴力) ・講義内容、他の学生の意見に耳を傾け、興味を持って聞く姿勢がとれる。 (柔軟性) ・体験学習で自他の特性を理解し、ストレスの予防や対応を考えることができる。 (規律性) ・受講態度(遅刻、欠席、学習意欲欠如、課題未提出、グループ活動への非協力等)が見られる場合は10点減点する。 (ストレスコントロール力) ・自己の性格特徴を理解し、ストレス軽減を図れるように予防と対応を考えることができる。
		②	✓	
		③	✓	
その他				
総合評価割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・保育の専門家として、各発達段階の精神保健上の特徴や問題を理解し、予防と対応を述べていることができる。(①) ・自分の性格や対人関係の持ち方を知り、自己のストレスに目を向け、予防方法を見つけることができる。(②) ・職場の人間関係や職場の環境など就職後のメンタルヘルスについて考え、心構えをもつことができる。(③) S(秀)=①+②+③、 A(優)=①又は②又は③の内の2つ	・乳幼児期の母子を中心に精神保健上の課題や問題行動を理解し、予防と対応を述べていることができる。(①) ・自分の性格や対人関係の持ち方を知り、自身のメンタルヘルスに興味を持つことができる。(②) ・職場の人間関係や職場の環境など就職後のメンタルヘルスについて意識をもって考えることができる。(③) B(良)=①+②+③、 C(可)=①又は②又は③の内の2つ

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
1週 /	自分自身のメンタルヘルスについて考える。子どもを中心とした精神保健の歴史を取り上げ、精神保健を学ぶことがなぜ保育上必要なのかを知る。	講義	精神保健を学ぶことがなぜ必要なのかを説明できる。	(復習) 実習体験や日常生活を振り返り、自身のメンタルヘルスについて考える。 (予習) 教科書p19～p34 を読んで、要点を2つまとめる。	90	主体性 規律性
2週 /	家族や家庭は子どもにとって大切な生活環境である。さまざまな問題を取り上げ、社会の中で家族と子どもが心身共に育つことへの理解を深める。	講義	子どもを取り巻く環境と資源について具体的に挙げ、説明することができる。	(復習) 子どもを取り巻く環境資源について詳しく調べ、ノートに追記する。	180	創造力
3週 /	胎児の心身の発達を学び、命の尊さを知る。さらに母子の心身の状態を理解し、起こりやすい問題や課題について知識を得る。	講義	中枢神経系の発達を阻害する要因について、説明することができる。	(復習) プリントを読み、胎児の発達を理解する。 (予習) 教科書p59～p66 を読み、乳幼児期の発達を再認識する。	180	主体性
4週 /	乳幼児期の心身の発達にもなう問題や課題について学び、その予防や対応を考える。母子関係、家族関係、友だち関係など関係性の視点から学ぶ。	講義	乳幼児期の心身の発達の特徴を発達段階に応じて説明できる。	(復習) 乳幼児に関する今までの学習や、実習体験を振り返り、ノートにまとめる。	180	課題発 見力
5週 /	児童期における心身の発達と起こりやすい問題や課題について学び、その予防や対応について家庭生活と学校生活の両面から考える。	講義	児童期の精神保健上の問題について記述できる。	(復習) 特別支援教育について調べてノートに記入する。 (予習) 教科書p74～p75 を読み、要点をまとめる。	180	主体性
6週 /	思春期から青年期における心身の発達とそれにもなう身体症状や精神症状を取り上げ、身近な問題として具体的にその予防や対応について考える。	講義	思春期から青年期における心身の発達の特徴を説明できる。	(復習) 思春期に起こりやすい精神疾患について詳しく調べてまとめる。	180	主体性
7週 /	青年期以降における心身の問題や精神上的の問題などを具体的に取り上げその予防と対応について考える。	講義 心理検査の実施結果を自己分析させ、その後日常生活において活かせるようにフィードバックを行う。	自身の性格特徴を捉え、ストレスを軽減する方法を考えられる。	(復習) 心理検査から自分の性格特徴を理解して、日常生活で意識して過ごすようにする。	180	ストレスコ ントロール力
8週 /	家庭は家族一人一人が単位となり集団で家族を形成する。家族の果たす役割、家族の中の個人それぞれの役割について学び、保育士としての理解を深める。	講義	家族の果たす役割について説明できる。	(予習) 教科書p101～121 を読んで、障害の種類について予習する。	180	主体性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
9週 /	障害についての理解を深め、起こりやすい問題や課題について学ぶ。また保護者の抱える課題についても目を向け、支えながら障害受容を促す関わりを学ぶ。	講義	障害の特徴と支援方法を述べることができる。	(復習)ノートを再確認して、支援方法に線を引き、理解を深める。	180	主体性
10週 /	発達障害について特徴を理解し、起こりやすい問題や支援方法を考える。	講義	障害の特徴と支援方法を述べるができる。	(予習)実習体験から、保育現場の事例を1つノートにまとめる。	180	主体性
11週 /	保育現場における事例を通して、子どものさまざまな問題を理解する。	講義、 グループ討議 積極的に意見を言う。	実習経験を思い出しながら、グループ討議に、積極的に参加することができる。	(予習)グループ発表のための資料を用意する。	180	課題発 見力 実行力
12週 /	グループ発表を聞き、子どものさまざまな問題に対する支援や予防について検討する。	グループ発表 わかりやすく聞き 手に理解してもら うことを意識した発 表。 講義	グループ発表で、聞き手にわかりやすくまとめ、発表することができる。	(復習)グループ発表のプリントを読み、理解を深める。 (予習)教科書p140～p155を読み、保護者の精神保健上の問題についてまとめる。	180	発信力
13週 /	保育士にとって、保護者の悩みを聞き、子育ての支援をすることは重要な役割であることを学ぶ。保護者の悩み相談を受ける際の基本をカウンセリング技法から学ぶ。	講義 体験学習	カウンセリング技法を実施することができる。	(復習)カウンセリング技法を再確認して、日常生活で活かす。	180	傾聴力 柔軟性
14週 /	職場のメンタルヘルスとして、保育現場でのストレスの内容やその理解と対応について考える。就職した際に活かせるように自分自身の問題として捉えていく。	講義	保育現場でのストレスについて理解し、対応を述べることができる。	(復習)自分自身がストレスを抱えやすい状況を日常生活の中で探してみる。 (予習)これまでのノートを振り返り、精神保健について自分の考えをまとめる。	180	ストレスコ ントロール 力
15週 /	子どもの発達や子どもを取り巻く環境について学んだことを統合し、保育の専門家として、さらに個人として豊かな人生が送れるように、生きることについて考える。	講義 学習のまとめ	自身のメンタルヘルスについて意識をもち、日常生活に生かすことができる。	(復習)筆記試験に向けて、教科書やノートを見直し、理解を深める。	270	主体性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力